



8/10西総監を囲む会 記念撮影



7/8サマーフェスティバル 金子会長と西総監 いせ艦上にて



8/10西総監を囲む会 在任中の思い出や感謝を述べる西総監



7/9サマーフェスティバル 音楽隊のコンサート

佐世保自衛隊後援会だより

（発行）佐世保自衛隊後援会 会長 金子 卓也 佐世保市湊町6番10号（佐世保商工会議所内） TEL (0956) 22-6121

佐世保自衛隊後援会



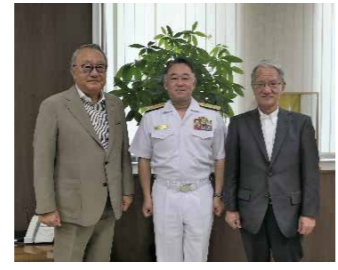
ホームページ

佐世保地方隊創設70周年記念サマーフェスティバル 海上自衛隊佐世保地方隊の創設70周年を記念したサマーフェスティバルが、7月8日（土）9日（日）の2日にわたり、新みなと岸壁帯で開催された。同隊は14隻の艦船で発足したが、今やミサイル艇や掃海艇など約60隻を擁し、西海鎮護の要として重責を果たしている。8日の訓練展示は悪天候のため中止となったが、来場者は護衛艦の内部公開や音楽隊のコンサート、ミニP3Cの展示などを楽しんだ。

佐世保地方総監 西成人海将を囲む会 8月10日（木）、ホテルフラッグス九十九島にて海上自衛隊佐世保地方総監 西成人海将を囲む会を開催。大石賢吾長崎県知事、宮島大典佐世保市長をはじめ、政界、経済界、自衛隊から220名超が出席した。西総監は1986年に防衛大学校を卒業、海上自衛官に任官されて以来、大村飛行隊長、第22航空群司令など大村市で約10年勤務。2021年12月に佐世保地方総監に就任した。九州沖縄地域の広大な海域を警備担当する佐世保地方隊の最高指揮官として、我が国の平和維持に多大なる尽力をされた。また地域のイベントにも時間の許す限り参加するなど、地域社会とのつながりも非常に大切にしている。出席者からは、西総監の長年のご尽力に対し、労いと感謝の言葉がかけられた。

2023年7・8月 異動のお知らせ

官 職	離 任	着 任
佐世保地方総監	海将 西 成人	海将 依 千城
佐世保造修補給所長	1佐 岸本 昌之	1佐 高橋 正浩
佐世保基地業務隊司令	2佐 貝塚 俊彦	2佐 平野 一照
佐世保システム通信隊司令	2佐 石原 健	2佐 田上 哲郎
ちょうかい艦長	1佐 小坪 聖一	1佐 北口 周右
きりさめ艦長	2佐 坂田 淳	2佐 齊藤 直樹
あきづき艦長	2佐 清 香織	2佐 小松 大祐
さわざり艦長	2佐 山内 敦	2佐 長野 恭介
第2掃海隊司令	3佐 西垣 匡敏	2佐 西條 浩史
たかし艇長	1尉 沖 佳大	3佐 西村 友宏



8/30 佐総監着任挨拶

佐世保地方総監 依千城海将 着任挨拶 8月29日付で第48代佐世保地方総監に着任した依千城（たわら）とき海将が着任挨拶のため佐世保商工会議所を訪れた。 依総監は島根県出身。1989年3月に防衛大学校を卒業。潜水艦の艦長や海上幕僚監部指揮通信情報部長を経て2021年12月から潜水艦隊司令官を務めていた。佐世保での勤務は、23年ぶり3回目。自衛隊行事や隊員の生活環境の改善など、様々な面で今後とも協力をお願いしたいと述べられた。

2023（令和5）年度防衛白書（抜粋） 第Ⅱ部 第4章 第3節 防衛関係費～防衛力抜本的強化「元年」予算～

1 防衛関係費の概要

防衛力の抜本的強化は、①スタンド・オフ防衛能力、②統合防空ミサイル防衛能力、③無人アセット防衛能力、④領域横断作戦能力、⑤指揮統制・情報関連機能、⑥機動展開能力・国民保護、⑦持続性・強靱性の7つの柱で計画的に整備を進めることとしており、令和5（2023）年度防衛関係費は、防衛力を5年以内に抜本的に強化するために必要な取組を積み上げて、新たな整備計画の初年度に相応しい内容及び予算規模を確保（防衛力抜本的強化「元年」予算）した。歳出予算は、整備計画対象経費として6兆6,001億円（前年度比1兆4,213億円（27.4%）増）を計上し、米軍再編等を含めると6兆8,219億円となり、「防衛費の相当な増額」を確保した。また、新規後年度負担（新たな事業）は、整備計画対象経費として7兆676億円（前年度比2.9倍）を計上し、1年でも早く、必要な装備品を各部隊に届け、部隊で運用できるよう、初年度に可能な限り契約を実施する。

具体的には、将来の防衛力の中核となる分野について、「スタンド・オフ防衛能力」、「無人アセット防衛能力」等について大幅に予算を増やすとともに、現有装備品の最大限の活用のため、可動向上や弾薬確保、主要な防衛施設の強靱化への投資（重要な司令部の地下化や隊舎等の整備）を加速している。

また、令和4（2022）年度第2次補正予算には、災害への対処能力の強化、インフラ基盤の強化、生活・勤務環境の改善などに必要な緊要の経費として、4,464億円を計上した。

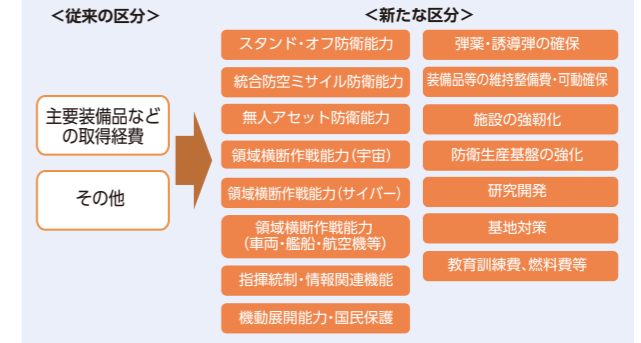
令和5（2023）年度の予算配分に当たっては、防衛力整備事業について、これまでは主要装備品などの取得経費とその他の経費の2区分に分けて管理してきたが、各幕・各機関ごとに新たに15区分に分類して管理することとし、予算の積み上げをよりきめ細かく行い、弾薬、維持整備、施設、生活・勤務環境等へのしわ寄せを防ぐこととした。

図表Ⅱ-4-3-1 防衛関係費の令和4（2022）年度と令和5（2023）年度の比較

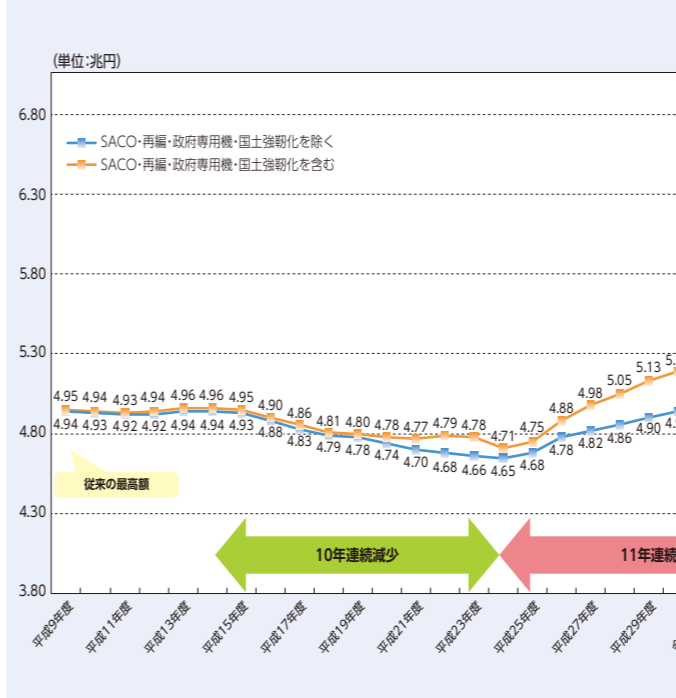
区 分	令和4（2022）年度		令和5（2023）年度	
	金額	対前年度増▲減	金額	対前年度増▲減
歳出額（注）	51,788	66,001	14,213	27.4%
うち人件・糧食費	21,740	21,969	229	1.1%
うち物件費	30,048	44,032	13,984	46.5%
後年度負担額（注）	53,342	99,186	45,844	85.9%
うち新規分	24,583	70,676	46,093	187.5%
うち既定分	28,759	28,511	▲248	▲0.9%

（注1）上記の計数は、SACO関係経費と米軍再編関係経費のうち地元負担軽減分等を含み、これらを含めた防衛関係費の総額は、歳出額に同じである。令和4（2022）年度は54,005億円、令和5（2023）年度は68,219億円にあり、後年度負担額については、令和4（2022）年度は58,642億円、令和5（2023）年度は107,174億円になる。
（注2）予算額には、デジタル庁にかかる経費を含む。
（注3）計数は四捨五入のため合計と符合しないことがある。

図表Ⅱ-4-3-3 年度計画・予算の配分方針の見直し



図表Ⅱ-4-3-2 防衛関係費(当初予算)の推移



（出典：令和5年版防衛白書）

図表Ⅱ-4-3-10 防衛関係費の使途別分類 (令和5（2023）年度)

